

日蓮大聖人御書全集

かんじんのほんぞんししょうおくりじょう

観心本尊抄送状

新版
147

かんじんのほんぞんしようおくりじよう

観心本尊抄送状

ぶんえい ねん

文永10年（'73）

がつ ち

4月26日

さい

52歳

ときじょうにん

富木常忍

ときどの

富木殿

にちれん

日蓮

かたびらひと

すみさんちよう

ふでごかん

た

そうら

お

かんじん

帷一つ・墨三挺・筆五管、給び候い了わんぬ。観心の

ほうもんしようしよう

しる

おおたどの

きようしんのごぼうとう

たてまつ

法門少々これを注して、太田殿・教信御房等に奉る。

にちれん

み

あ

だいいじ

ひ

むに

このこと、日蓮が身に当たる大事なり。これを秘す。無二の

こころざし

み

かいたく

志を見れば、これを開拓せらるべきか。

しよ

なんおお

こた

すく

みもん

ひと

じもく

この書は難多く答え少なし。未聞のことなれば、人の耳目

きようどう

たけん およ

さんにんしにんぎ

これを驚動すべきか。たとい他見に及ぶとも、三人四人座

なら

よ

ほとけ

めつご

を並べてこれを読むことなかれ。仏の滅後

にせんにひやくにじゅうよねん

しよ ころあ

こくなん かえり

二千二百二十余年、いまだこの書の心有らず。国難を顧み

ごう びやくそくご

えんぜつ

こ ねが

いつけん

ず、五の五百歳を期してこれを演説す。乞い願わくは、一見

へきた

やから

していとも

りようぜんじようど

もう

さんぶつ

げんみよう

を歴来る輩は、師弟共に靈山浄土に詣でて三仏の顔貌を

はいけん

きようきようきんげん

拝見したてまつらん。恐々謹言。

ぶんえいじゆうねんたいさいみずのととりうづきにじゅうろくにち

にちれん

かおう

文永十年太歳癸酉卯月二十六日

日蓮

花押

と きごの ごへんじ

富木殿御返事